

令和5年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

平均正答率は全国の目標値を、全学年において上回っている。このことから、昨年度の授業改善推進プランや日々の学習指導が効果的に成果を上げたと考えられる。

低学年は、助詞の使い方に関する指導に重点を置いた。「書くってたのしいね」や日記の宿題を活用することで少しずつ改善が見られた。スピーチの単元を生かして、接続詞を用いた話し方を身に付けた。中学年は、校内研究と関連して話型を使って書くことに取り組んだので、書き始めに戸惑う児童は減った。高学年は「書く」単元でタブレットを活用したので、推敲する力を高めることができた。

全体では、大田区漢字検定があることで、取り組みに対する目標意識をもって学習することができている。

(2) 課題

標準スコア(全国平均を50としたライン)は、上回っているところが多いものの、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の項目が5・6年生では下回る結果だった。このことから、言葉の意味を理解していても、日常的に文章を書く際に、漢字を正しく使って書くことが課題である。また、定型文のような書き方になっているため、言葉を精選し、表現を吟味して書き表すことができていない。今後は、辞書引きで調べた言葉や文章中の表現を、自分で活用することに重点を置いて指導する必要がある。

全学年を通して、語彙の広がりには課題がある。特に、低学年は辞書がないので、教師が言葉の意味を説明する時間を取っていく必要がある。また、学習した漢字を活用することが苦手な児童が多い。タブレットを使っていると自動変換してしまうので、自分では書くことができない実態がある。そのため、日記や読書活動などの手だてを講じて、書く力の指導をしていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	平均正答率が、目標値を上回っている。		
第5学年	平均正答率が、目標値を上回っている。	平均正答率が、目標値を上回っている。 (第4学年時)	
第6学年	平均正答率が、目標値を上回っている。	平均正答率が、目標値を上回っている。 (第5学年時)	平均正答率が、目標値を上回っている。 (第4学年時)

(2) 分析(観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内の正答率は、目標値と同程度であったが、主語と述語との関係の問題では、目標値を下回っていた。	校内の正答率は、目標値を上回っていた。	校内の正答率は、目標値と同程度であった。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内の正答率は、目標値を上回っていた。	校内の正答率は、目標値を上回っていた。	校内の正答率は、目標値を上回っていた。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
平仮名やカタカナ、漢字の指導を丁寧に行い、小テストなどを実施して、定着を図る。助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解させる。拗音、長音、促音を正しく表記できるようにする。句読点や、かぎ（「」）の使い方を作文や日記等の指導を通して、繰り返し練習させ身に付けさせる。	自分の考えを表現するため、ペア交流の場を日常的に取り入れていく。自分で経験したことを、学んだ話型を使って話す習慣をつける。国語の時間だけでなく、どの授業でも、順序や話型に気を付けた活動を行い、全体の前での話し方を工夫できるようにする。	平仮名や漢字の学習をする際、毎時間、既習の平仮名や漢字で始まる言葉集めをする。国語の学習だけでなく、他教科や日常生活でも言葉を意識させ、音読や読み聞かせの活動を取り入れる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎となる漢字の指導を丁寧に行い、小テストなどを実施して定着を図る。また、ローマ字を読む問題は目標値と同程度であるが、タブレットでローマ字入力をするこもふまえ、繰り返し練習させ確実に身に付けさせる。主語に着目させて、段落ごとに話題をとらえる力を養う。	情報と情報との関係を理解し、中心となる語や文を見付けて要約する力がやや低い傾向にある。文章の構成を意識しながら読み取らせ、内容の中心を押さえる力を高めていく。キーワードや中心文をとらえながら読む指導を通して、要点にまとめながら読めるようにする。	全体的な意欲は高いが、指定された長さで文書を書くことには課題が見られる。「書くって楽しいね」などの取り組みや、日記などの指導を通して、書くことへの苦手意識を減らし、書く力を高めていく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習漢字を活用する力に課題が見られる。タブレット使用により、漢字変換に頼る場面が増えているため、学習課題に応じてノート指導等を取り入れ、既習漢字や表現を自分で考えたり調べたりして活用する場面を増やす。	情報を正しく読み取ることができるよう、文や段落の構成を意識して読み取らせるようにする。また、書いた文章を読み返したり、よりよい表現を吟味したりする活動を通して、文章を書く力を高めていく。	話すこと・聞くこと・読むことと比較して、書くことに苦手意識をもっている児童が一定数いる。書き出しの表現を示したり、文章構成の型を指導したりすることで、書くことへの抵抗を減らしていくよう工夫する。